

令和3年度第1回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和3年9月17日（金） 15：00～16：55
場 所 加西市役所1階多目的ホール
出席者 委員9名：笹倉剛、松本孝美、松尾弥生、衣笠朋子、市浦央子、志方正典、
大崎あすか、吉田香代子、井芹明美
教委・図書館3名：民輪教育長、藤川館長、伊藤主幹
欠席者 東出一浩

1 開会 伊藤主幹が開会を伝えた。（15：00）

2 あいさつ

教育長あいさつ

8月末頃に「加西市新任教職員研修会」が開かれ、その第一部は、「夢の実現研修～教育長と語ろう～」と題されていました。「夢の実現を研修することなんてできるの？」とも思いましたが、とても楽しかったです。出席者の中にはこの3月まで大学生だった教師もいて、何とも言えないフレッシュな「時代の風」をまとっていました。私は、『『いい先生』にならなくていい。自分の大切にしたいものは何なのか、勇気を出して、自分を主張してほしい。』と挨拶しました。

また、彼らからの質問の中に、「今の教育長を形作ったものは何ですか？」というものがああり、私は「読書と旅です。」と答えました。旅は未知の世界との遭遇であり、同時に未知の自分自身の発見でもあります。そして、私を形作っているもう一つの大きな要素は「読書」です。小学校時代から、図書室でバーネットやディケンズやアンドレ・ジッド、ヘルマン・ヘッセなどをむさぼり読みました。今もその性癖は変わらず、疲れ果てて家に帰って、ベッドに横になってまずすることは読書です。

先日も、ピーター・ディアマンデスの著書を読んで知ったのですが、世界経済フォーラムが挙げた現代社会の5大リスクの中に「水危機」があります。世界できれいな飲み水を入手できない人は9億人にのぼると言います。カリフォルニア州のスカイソースという会社の取組では、その会社のテクノロジーを使うと、1台の機器で大気中から1日2,000リットルもの水を抽出できるそうです。大気は無料で、無限にあります。すごい発想だし、それを最新テクノロジーが実現させるのもすごいと思いました。

図書館は知の牙城です。そこには無限の「未知との遭遇」があり、アイデアが息づいています。企画の宝庫、快樂の宝庫でもあります。加西市教育委員会は、いま一丸となって、STEAM教育を推し進めようとしています。藤川館長はこのプロジェクトのリーダーの一人です。図書館のイノベーションにもどんどん挑戦してくれるだろうと期待しています。委員の皆さま、どうぞお力添えいただきますよう、お願いいたします。

3 委員紹介

委員、職員が自己紹介を行った。

4 会長・副会長選出

互選により会長に笹倉委員、副会長に松本委員を選出する。
笹倉会長と松本副会長から、就任にあたり一言挨拶。

5. 報告・協議事項

伊藤主幹から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

(1) 令和2年度図書館事業実績報告について（藤川館長説明）

委員：統計資料を見て驚いたのだが、新型コロナによる感染者数が増えると、利用者は図書館に行くことを控えたりして、図書館の利用状況は影響を受けるものだが、ほとんど関係が見られない。これは図書館側が余程細かい配慮をしているのか。

事務局：新型コロナに対する感染症対策は、基本的なことはやっている。新型コロナが世界で広がり始めて1年半が過ぎ、利用者がコロナを恐れなくなってきたこと、また、図書館でコロナに感染したという事例がないことが要因ではないかと思っている。当初恐れられていた接触感染はほとんどなく、科学的なデータでも飛沫感染やエアゾルによるものが多いことが分かってきている。また、近隣市の図書館がコロナ対策のため閉館していた時も加西市立図書館は開館を続けていた。そのことで利用者が加西市立図書館はいつも開館していると認識していたからではないかと推察する。

委員：図書消毒機を利用している人も多く見られる。

委員：市外在住だが、私の息子はコロナ禍で休館している図書館が多い時に、よく加西市立図書館を利用していた。また、学校で子ども達に、ゴールデンウィーク中も本をたくさん読もうと話した。

委員：子ども達は、自動貸出機だと自分で簡単に本を借りられるということで、「とても喜んで操作している。」と聞いた。ただ、年配の方が「カウンターのスタッフとの会話が少なくなりさみしく感じる。」という意見も聞いた。

事務局：自動貸出機を導入することで、利用者とスタッフの会話の機会が減ってしまうことは懸念していた。カウンター越しでの図書の貸し借りはなくなっても、利用者とスタッフの基本的なコミュニケーションは引き続き行っている。もっと気軽にスタッフに声をかけてもらえるようにレファレンスを充実させたい。

委員：最近、市の広報に図書館のページができた。とてもよいことだと思う。行事ばかりを掲載するのではなく、「図書館はこんなところだ。」ということをわかりやすくPRしてほしい。

委員：小学校に図書ボランティアで行くと、子ども達から「いい本ない？」「〇〇な本はどこにある？」等、聞かれる。「あれはあそこにある。」「こんな本はどう？」と子ども達に紹介している。これは大人にも通じる。図書館でも「いい本ないかな。」「こんな本はあるかな。」と図書館スタッフに聞きたい人はいる。図書館スタッフから新しい本を紹介されて、さらに本の世界が広がる。これは大事なことだと思う。広報でもそのような実績を紹介してもらえたらと思う。

委員：私は以前、生涯学習の相談（どのような事業や講座があるのかを紹介する）の仕事をしていました。自分で目的意識を持って検索できる人はいいのだが、「何を探していいのか。」テーマが決まっていない人は、相談に乗る必要がある。レファレンス又は図書コンシェルジュがあればいいと思う。

委員：レファレンスには2種類ある。1つは書誌事項、本のことについて尋ねるレファレンス。これについては、利用者に検索の方法や、どうやったらその本にたどり着けるのかを図書館スタッフが丁寧に対応することで、利用者は自分で本を探せるようになる。もう1つは事実検索、事実を検索するのは一般の人では非常に難しい。専門的な本を知っていて、それに関するデータベースが使えなければならない。これについては図書館スタッフが「こういう情報があります。」と説明すべきである。これらを使い分ける必要がある。小学生ではレファレンスまではいかないかもしれないが、その体制さえできていれば、授業でやったことを自分で調べて、本を見つけて、といった具合にさらに深まる。

事務局：現在、加西市教育委員会ではSTEAM教育を進めている。テクノロジーを使って、横断的に個々の力を合わせて課題を解決していくというものである。その過程で、情報を集めて、それをどう使うかということが重要な要素になる。その中で図書館が情報のアクセス（検索）を市民にどのように提供していくかが大切になってくる。図書館がその役割を果たすためには司書が重要である。優秀な司書は時間が育てる。専門的な知識を身に付けるには時間がかかる。そのためにもレファレンス講座に力を入れたいと思っている。

委員：子どもの読書感想文の宿題で、図書館に本を探しに来た時に、図書館スタッフにおすすりめ本を尋ねたところ、すぐに数冊本を紹介してもらえた。子どもも気に入った本が見つかって、宿題をやり終えることができた。後日、また別の題材で本を探しに来館した際もすぐに対応してもらえた。丁寧に接してもらいうれしかった。

委員：本の題名や内容が知りたい時に、わかる仕組みがあればいいと思う。インターネットで本を調べていると紙媒体のものと電子書籍の両方が表示される。加西市立図書館では電子書籍を導入する予定はあるのか。

事務局：電子書籍を導入している公共図書館は県内でもそれほど多くない。近隣では小野市が導入している。加西市でも検討はしている。

委員：電子書籍も貸出可能なのか。

事務局：電子書籍も貸出できる。電子図書館システムの形態で貸出す。1人が借りたら他者は借りられない。紙の図書と同じである。

委員：図書館に来なくても、自宅から電子書籍を借りることができるのか。

事務局：そうです。加西市立図書館の利用者は北条地区の人が多し。市の周辺部の人にも利用してほしいと思っているので、電子書籍は有効である。

委員：学校の図書室で子どもがタブレットで検索しているのを見ると、文言が大人対応である。子どもの年齢に合わせた言葉で年齢層ごとに検索できるようにしてほしい。それと、インターネットで調べるのは簡単であるが内容が頭に入ってこない。紙の図鑑の方が子ども達はじっくり見ている。電子書籍が適しているものと年齢層は限られる。

事務局：紙の書籍と電子書籍は全く別物だと考えている。電子書籍に触れる機会もあるべきだと思う。1つの選択肢として、いずれ導入したいと思っている。電子書籍を導入することで市民の選択肢が増えることはよいことだと思う。検索の件では館内OPACは大人用と子ども用がある。電子書籍についても調べてみる。子ども向けに検索の仕方を教える機会があればいいと思う。大人でも検索の仕方によって結果が違ってくる。どのような検索の仕方をするか自分の知りたい情報に辿り付けるのかの知識を身に付ける必要がある。

委員：こども園では、職員が忙しくてなかなか図書館に本を借りに行くことができない。図書館から本を届けてもらっているが大変助かっている。また図書館からの出前講座も大変おもしろく工夫されており、子ども達も楽しみにしている。

(2) 令和3年度図書館事業計画について（藤川館長説明）

委員：調べ学習でテーマにあった本を団体貸出してもらえるのはありがたい。各学校工夫を凝らして読み聞かせをしているがコロナ禍で外部の人を呼ぶことが難しいときもある。校長室からリモートで読み聞かせをしたこともある。学校と図書館をリモートで繋いで、本の案内や紹介をしてもらえたらいいな。と思う。

委員：雑誌の特集で、「電子書籍は読みますか？」との質問をしていた。多くの回答者は「読みます。」と答えられていたが、「どんな本を読みますか？」と聞かれると、「分厚くて、重くて、シリーズになっている本。」と回答していた。場所を取ったり、かさばる本は電子書籍がいいようだ。電子書籍を導入することはいいことだが、導入するにあたり、どんな本を入れるのか整理してほしい。また、良い児童書がたくさん閉架書庫に入っている。閉架書庫に入ってしまうと利用者は借りられていない本だと思ってしまう。何十年も読み続けられてきた本を大切にしてほしい。

委員：コロナ対策だと思うのだが、館内に「本は自分で探してください。」「職員とは距離をとってください。」と貼り紙がある。ちょっとどうかと思う。

事務局：コロナウイルスに対するリスクを減らす意味で以前に貼ったものであるが、もう剥がしたいと思う。良い本が閉架書庫に入ってしまう件については、名作と言われている絵本は、館内にコーナーを作り展示している。閉架書庫にある本を利用して特集を組み、来館者にはもっと多くの本に触れてほしいと思っている。

委員：図書館が読んでほしいと思っている本、利用者が良いと思っている本。2つの要求論がある。評価の高い、定番の本は子どもが大きくなるまでに会ってほしい。また、本の検索について、館内にある本の検索はできるが、館内にはない本は検索できない利用者が多い。アメリカでは蔵書のうち3割の本が利用者からのリクエストである図書館がある。本の検索ができる利用者を育ててほしい。利用者が図書館に来たくなるような仕掛けがほしい。

委員：良い図書館は、やはりそこで働く人であると思う。知識も大事だが、ホスピタリティーだと思う。どれだけ利用者に寄り添えるかが大事である。図書館スタッフには学びながら成長していただきたい。

(3) その他（藤川館長説明）

・図書館の開館時間について

事務局：利用者から図書館を「もっと早い時間に開けてほしい。」また、「もっと遅くまで開けてほしい。」との声がある。反対に「コンビニではないのだから、今のままでよい。」との意見もある。委員の皆さんの意見を聞きたい。

委員：山梨県にシャッターを半分開けて、無人で自動貸出機で本の貸出をしている図書館がある。また駅前でも無人で貸出をしているところもある。可能であるならば検討してほしい。

委員：17時30分以降の入館者数は多いのか。

事務局：閉館前に駆け込みで利用する方は一定数存在する。遅くまで図書館が開いていたら来たい。と言う人はいるが、本当に利用するかどうかはわからない。

委員：図書館の閉館時間前頃に利用した時は、ほとんど利用者がいなかった。

委員：加東市中央図書館は19時まで開館している。とても助かる。

教育長：東京では図書館は20時まで開館している。当然だと思っていた。加西市に帰ってきたら、20時だと辺りは真っ暗である。

委員：小野市立図書館はどうなのか。

事務局：小野市は、夏休みの期間のみ9時から開館している。以前には、加西市でも試行で夏休みに9時から開館したことがある。結果、来館者の人数は変わらず、時間あたりの利用者数が減っただけであった。加東市は中央図書館のみ19時まで開館している。その他の図書館は18時までである。また、加東市は複数館あるため、曜日を交えて週1回休館日を設けている。スタッフのシフトや図書整理の関係で、加西市立図書館としても週1回の休館日を設ける方がいいのかどうか悩んでいる。

委員：一旦全日開館を実施したら、「なぜ休館日を作るのか。」という意見も出てくる。

事務局：加西市立図書館も、当初は週1回の休館日があったのだが、「全日開館してほしい。」との要望があり、現在の形態になっている。しかし、全日開館しているから利用者数が多いかというところでもない。全日開館してからの方が、来館者数は減っている。

教育長：美術館等でも週1回の休館日はある。利用者も休館日が分かっていたら困らないのではないか。

委員：金曜日だけでも1時間延長してもらえれば便利である。

委員：館内整理日はどうなっているのか。

事務局：館内整理日は、月1回、月末に設けている。

教育長：週1回の休館日を設ける代わりに開館時間を延長する曜日を設けたほうが、特色があってよいのではないか。

事務局：委員の皆さんは、図書館が遅くまで開いていたら利用されますか。

委員：図書館の閉館時刻近くに利用したことがあるが、急いで図書館に向かっている人を見かける。ただ20時まで開けておく必要があるかどうか。

委員：週1日くらい遅くまで開いている日を設けることは良いことだと思う。また、週1回の休館日は設ける方が、図書館スタッフの健康のためにいいと思う。

委員：加西市では 20 時だと真っ暗である。これから冬に向かうのでなおさらだと思う。遅くまで開館時間を延長するのであれば 19 時位まででいいのではないか。

6 連絡事項

次回開催は、令和 4 年 3 月中旬から下旬の予定で了承を得た。

7 閉会 松本副会長が閉会のあいさつをした。

(16 : 55 終了)